

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275900122		
法人名	医療法人社団 慈優会		
事業所名	グループホーム日の出		
所在地	千葉県山武郡九十九里町片貝2582番地9		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成23年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>海が近くのびのびとした良い環境の中でご利用者様一人一人の思いや尊厳を大切にし穏やかで、安全、安楽、今までの暮らしと変わりなく生活して頂く為に、経験豊かな職員全員がターミナルケアまで対応できる介護体制をとっております。又、施設に隣接する九十九里病院とも24時間医療連携をとっており、緊急時の医療体制も万全です。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームに隣接して、母体法人の病院がある。救急医療を行い、地域医療の中核を担っている。ホームとの緊密な医療連携、リハビリ支援は入居者や家族の大きな支えとなっている。入居者はゆったりした環境と家庭的な雰囲気の中で生活を送っている。入居者の平均年齢は高く、看取りの事例は多い。ターミナルケアのマニュアルと職員間の日頃の連携で看取りが日常の事として共有化され、実践されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所 独自の理念をつくり、玄関やユニットに掲示して 職員全員が入居者、一人一人の人格を尊重したケアができるよう取り組んでいる	法人の理念とは別に事業所の理念を職員と共に作っている。折に触れて確認しているが、あるべきサービスを求めて、さらに良い理念を作ることも考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一斉清掃日や地域の祭り・文化祭・運動会等に積極的に参加し地域の方と交流を持っている	九十九里ゴミゼロ運動、郷土芸能まつり、地区のふるさとまつり、保育園・小学校への運動会等に参加している。中学校吹奏楽部が訪ねてくれたり、小中高校の職場体験受入など地域との交流は盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2カ月に1回定期的に開催し、運営推進会議の役員に地域の方・入居者のご家族、町役場の担当職員に入っていたり地域の方に認知症の理解をしていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日頃の取り組み状況を報告し意見交換を行いサービス向上に活かしている	地区代表、行政担当、福祉施設、病院の責任者クラスを招いて隔月に実施している。関係者からの忌憚のない意見、アドバイスは運営に気付きを与えている。但し、サービスを受ける側となる家族の参加は少ないようである。	今後は、出来る限り家族の参加も得て、家族ならではの気づきなど、出された意見について話し合いを持つことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町内の認知症の方の情報交換、施設内空き情報待機者情報等連絡を密に取って、協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政の担当課、社会福祉協議会、地域包括支援センターなどとは頻りに情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の自動ドアは常のカギをせず手動にし、外にいつでも出られるようにしている 転倒の危険性のある方に限り ご家族の了解を得て時間で抑制を使用している	原則身体拘束は行なわない方針である。家族の了解を得て抑制することがあるとのことだが、入居者本人がどう感じているのか、再考することを検討してもよいと思われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県で行われている虐待の防止研修に可能な限り参加し、情報・知識を学んでいる 入浴時に身体観察を行い異常の早期発見に努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、研修参加者からの資料、情報、内容の伝達をし必要時 それらを活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、必要説明事項を口頭及び文章により施設管理者から説明し、その時にご家族・ご本人の不安や疑問点を尋ね、一つひとつ説明をし理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常にご利用者の意見 苦情などを聞き入れ内容によってはご家族に連絡相談しご本人が納得できるように話合っている	ホーム来訪時、介護計画の説明時などを捉えて面談を行なっている。来所の少ない家族には事業所から声をかけて来てもらうようするなど、積極的に意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月 ユニット・全体会議を行い意見や提案の場を設けている	サービス担当者会議やユニット会議、全体会議等、さまざまな機会に運営面での提案を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望を受け入れるようにし、働きやすい状況にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り職員は必要研修を受け 研修内容を伝達研修を行い 知識・技術を共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、研修内容の発表の場、勉強会等を行ってサービスの質を向上させている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	対話可能な方には話す機会を多く持ち、その会話の中から不安なことや求めていることを探り、自己主張の難しいかたには日常の表情、行動から観察し生活が安楽になるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と連絡を密に取り初期の生活状況をお知らせしている。他科受診も初期ではご一緒にいただいている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでは他施設の利用は認められていないので 歯科・薬局については専門職に支援を依頼している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	高齢者の知識は多く、若い職員は御利用者から学ぶことが多い 一緒に過ごし生活しながら ご利用者個人の機能を維持し支え合っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族に施設での生活状況、イベント参加状況、金銭出納状況を報告し施設訪問時にご意見 ご要望を伺い ご家族とともにご本人を支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時にご家族から面会者の制限有無を確認し ご利用者様の友人・同好会の方の訪問を受け入れている	友人や元部下、教え子などの訪問がある。この他、電話や手紙のやり取りなど、これまでの関係性継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ食事を全員が同じ場所で同じ時間に摂るように促し 利用者様同士のかかわり合いを把握し支え合えるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移動された方、自宅に戻られた方には手紙や面会により断続的な関わりを保っている 医療施設へ入院の情報を受けた時は面会に行くようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族のご希望及びご本人のご希望を受けより良い介護の提供に努めている	職員は入居者の希望・意向を尊重できるよう、意思の確認に努めている。発語の難しくなっている人には、質問の仕方を工夫するなど、簡潔に答えられるよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族 それぞれのケアマネからの情報提供 主治医からの情報提供からご利用者さまのこれまでの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事以外ご利用者様の一日過ごし方に制限することなく自由にし、個人が有する力できることを把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ中心に職員同士情報を共有し、ご利用者様の為に何が必要か意見の交換をし介護計画を立て、その計画を実施し結果をだし 残った問題も話し合うようにしている	緊急性のある問題はサービス担当者会議を開き、すぐにケアに反映させている。月1回をサイクルとしたユニット会議・全体会議で意見交換し、家族の意見も取り入れた計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者様の介護経過をそれぞれの勤務帯で記録に残し情報を共有しながら実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関と医療連携契約をしている 毎月の訪問診療 毎週の訪問看護・訪問歯科を利用し 健康状態野早期異常発見に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の同意を得たうえで 顔写真入りの情報リストを作成し、地域の交番・警察・病院・に届けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療一般内科(毎月1回) 訪問看護(毎週1回) 訪問歯科(毎週1回)専門医と契約している また 認知症状に変化のある時は地域の精神科に受診 状態が落ち着き次第 かかりつけ医に情報提供を頂き 経過観察をしている	訪問診療、訪問歯科、訪問看護と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。専門医や入居前のかかりつけ医受診も家族の協力を得て行っている。経営母体である隣接の病院は、24時間体制で緊急時対応が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回 訪問看護時に日常の健康管理・医療相談をし医療活用支援を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した後、毎日 ケアマネ・管理者・当日のリーダーのうち1名が面会に行き、病棟看護師と情報交換をし、外出が可能であればホームで日中の時間を過ごすことも行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの希望有無を聞き終末期のあり方を確認させていただいている 看取り期に入り主治医からの説明を受けた後、看取り契約を行っている	契約時に指針を説明し、終末期の在り方を家族と話し合っている。医師がターミナルと判断した時点で、家族と「看取り介護の同意書」を交し、再度意思の確認をしている。ターミナルケアのマニュアルと職員間の日頃の連携で看取りが日常の事として共有化され、実践されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員、地域で行われる 上級救命救急講習を受けている。また 定期的に応急手当や初期対応の勉強会を設け、実践に繋がるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 避難訓練を行い 夜間想定・地震想定・火災想定と場面を変えている また地域の消防署の協力の下 模擬消火器による消火訓練も毎回取り入れている	消防の協力を得て、避難訓練・夜間想定訓練などを行っている。母体の病院に要請し、非常時には8名の応援を取付けている。東日本大震災を運営推進会議の議題とし、大災害時のマニュアルづくりに生かした。近隣との協力体制にも力を入れている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はひとり一人の人格を尊重するよう努め、接遇の研修にも積極的に参加して職員同士 常に気に付けている	人格の尊重を理念に掲げ、接遇やプライバシー保護の向上に職員全体で取り組んでいる。習慣や方言を大切にしたい利用者との関係作りが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表せるように声掛けをし働きかけ、わかる力に合わせた説明を行い、自己決定して頂き納得しながら暮らせるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の一人ひとりの生活パターンに合わせて食事時間、就寝時間を調整している。又 食事内容も一人一人に合わせた形態に調整し提供している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各居室には洗面台が設置されており、身だしなみがすぐできるようにしている また理容・美容に関しては2カ月に1回訪問美容において散髪をしている 個人希望先にも送迎可能としている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、ご利用者様と職員と一緒に食事をし 味付け、盛り付け、食器類にも気を配っている。また一緒に食事をとる事によってご利用者の好みや摂取状況も把握することができる 個人のできる力を見極め食事の準備や片付けも一緒に行っている	入居者は、その日の状態や調子により食事作りに参加している。各テーブルに職員が入り、一緒に食事を取っている。回転寿司や宅配寿司を利用したり、庭で食べるなど食事が楽しくなるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量を記録に残している ひとり一人の摂取状態に合わせ食事形態を考慮し むせ込みがある方はとろみを付け水分量・食事を確保している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 各自でできる方には声掛けをし実施して頂き 義歯の方は毎食後外して洗浄し週1回洗浄液に付けて清潔を保っている介助が必要な方に対しては 職員がガーゼや舌ブラシを使用し口腔内の清潔を保持している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その日の状態をみて おむつ使用の方でもトイレでの排泄介助を行い腹圧をかけ 排泄を促している自立までとはいかないがトイレでの排泄が習慣になるよう支援を行っている	入居者の状態を見ながら時間毎のトイレ誘導を行っている。食事を工夫し、トイレでの排泄を促した結果、便失禁が無くなり、自然排泄が習慣になった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物は軟らかくし、個々の排便パターンで水分補充時に牛乳やヨーグルトを摂取して頂き 薬に頼らず自然に排便できるよう取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的3日に1回ペースだが、ご利用者様の体調・気分で時間・曜日の変更を可能としている 希望時などはその都度対応している	3日に1回のペースで入浴している他、入居者の希望にはその都度対応できるようにしている。入浴したくない人には無理強いすることなく、次のタイミングを見極めたうえで、気持ちに沿った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間・起床時間は個々の習慣に応じて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	契約薬局と医療連携の薬局と連絡は密に取り、症状の変化等があった場合は記録に残し、その都度相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる力を継続・維持できるように可能な限り職員と一緒に家事全般を行って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば1名でも対応している必ず、職員が同伴し、職員が可能なかぎり自由に外出できるよう支援している。また天気の良い日はドライブ・散歩・庭でお茶をしたりしている	定期的な通院を徒歩で行い、リハビリの一環としている。リハビリの無い日は、買い物やドライブに出かける。外気に触れることを大切に、庭での食事やお茶・ホームのセラピー犬との散歩などを行っている。希望に沿って個別の対応もしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望があれば随時、小遣いを下せるようにしている買い物は必ず職員と一緒にいき、会計はご本人にして頂く		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時はスムーズに行くよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある貼り絵や折り紙等 ご利用者様と一緒にいき共同スペースに掲示し、共用スペースは常に清潔を心掛けている	木造平屋建てのホームは、広々としていて車椅子の往来も狭さを感じさせない。玄関中央に位置する事務所と台所からは、利用者の動きが確認しやすい。居間の窓は掃き出しになっており開放感がある。庭で犬を飼い入居者の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設け、気の合う方同士で過ごせるよう座席の工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた 馴染みのある筆筒や小物等を居室に持ち込みご本人が居心地良く過ごせるようご家族と相談し工夫をしている	入居前の使い慣れた家具が生かされている。好きなものや写真が飾られ、整理整頓が行き届いている。重度化する中でベットから布団に変えるなどの工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方のわかる力を活かして生活して頂いているが混乱・失敗などあった時は職員も一緒になってより良い方向に向け、安全な生活が送れるよう支援している		